

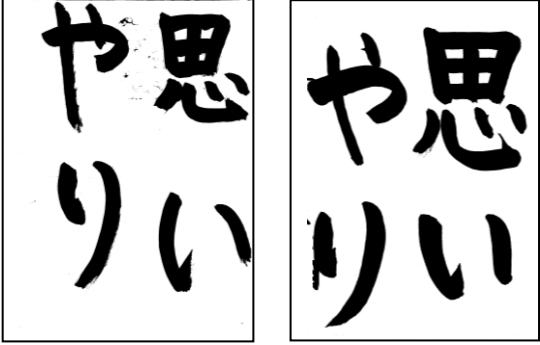


第6学年 国語科書写学習指導案

1. 授業の実際

- (1) 単元名 字配りと点画のつながり『おもいやり』
- (2) 本時の目標 ・字配りに気をつけて書くことができる。
- (3) 本時の展開 (2 / 3)

過程	学習活動と内容	教師の指導、支援・評価 (◇)
<p>目標 把握</p> <p>基準 確認</p>	<p>1 本時の目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 字配りに気をつけて書こう。 </div> <p>2 字配りのポイントを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①文字の大きさ…漢字は大きく、平仮名は小さめに書く。 ②行の中心…文字の中心を行の中心にそろえる。 ③字間…文字と文字との空きを同じぐらいにする。 ④余白…用紙の上下・左右のあきが広すぎたりせますぎたりしない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を想起することで、学習のつながりを意識できるようにする。 ・前時のまとめを振り返るよう促し、児童から字配りのポイントが出てくるようにする。 ・書写の用語が活用できるように、用語の意味を確認する。
<p>練習</p>	<p>3 自分の目標と、そのための練習や解決の方法を考える。</p> <p>「左の余白が空きすぎたから、バランスよく書きたい。」</p> <p>『思』が小さくなってしまったから、大きく書く。」</p> <p>「練習用紙を作って練習する。」</p> <p>「半紙を折って書いてみよう。」</p> <p>4 練習や解決の方法を考えて練習する。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・目標にしたい字配りを使って、練習用紙を作る。 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の外形を写しとって練習する。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた試書と学習カードを確認し、自分の目標や練習方法を考えるよう促す。 ・主体的に学習に取り組めるように、教科書の字配りと自分たちで考えた字配りのどちらかを参考にしてもよいことを伝える。 ・各自の目標に合わせて練習ように助言し、適切な練習ができるようにする。 ・かご文字の練習用紙と文字の外形を書いた練習用紙を印刷しておき、短時間で多く練習したい児童や、練習用紙を作ることが苦手な児童が活用できるようにする。また、練習用紙を自作するための参考になるようにする。

まとめ	<p>5 まとめ書きをし、二人組で学習の成果を確認し合う。</p> <p>6 学習カードに振り返りを記入する。 〈児童の書字の変容〉</p> <p>試書 まとめ書き</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果が実感できるように、自分の目標を伝え、試書と比べて良くなった点について見合うよう促す。 ・試書とまとめ書きを比べ、字配りの4つのポイントと自分の目標の達成度を5段階で評価することで、学習の成果を数値として実感できるようにする。 ・学び方を振り返り、効果があったと感じた練習方法や解決の手段を記入することで、今後の学習に生かせるようにする。
日常化	<p>7 今回の学習が使えるような日常の場面を考える。 〈児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書く時 ・ポスター ・名前のカード ・手紙 <p>8 次時の学習の予告をする。 ・次は点画のつながりについて学習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・字配りを考えて書いた経験や字配りを考えると読みやすい物を、これまでの生活や学習の中から想起するよう促す。 ・決まった枠の中に書く場면을例示し、本時の学習を日常の場面で生かそうという意欲を喚起する。 ・次時は字形の整え方を学習することで、よりバランス良く見える書き方になることを伝え、学習への意欲をもてるようにする。

2. 成果と課題

(1) 成果

- 「文字の大きさ」「行の中心」「字間」「余白」の四つの観点を示して数値化して評価させたことで自分の課題が明確になり、課題に合った練習方法を考えて意欲的にとりこんでいた。また、練習後も同じ観点を評価することで、練習の達成度も数値として実感できるようになった。
- 学習カードの「学び方をふり返ろう」には、練習方法や気をつけたことなど今後の学習につながる記述が多く見られた。
- 目標とする見本を自分で選ぶようにしたことで、自分が目標とする字配りに近づけようと考えて主体的にとりくむ姿が見られた。

(2) 課題

- 「今回の学習が使えるような場面」を考えることで、日常化につなげたいと考えていたが、児童から活用場面があまり挙がってこなかった。実際に字配りを考える必要がある国語を含む他教科の学習と関連づけた単元構成をするべきであった。
- 教科書の文字を使って、一人一人が自分の目標とする字配りを考えて活用すれば、より主体的な学習につながったかもしれない。